

① 米【物価 & 長期金利 & 株価】

⇒ 既に米物価には部分的に過熱感がある

⇒ 1月の消費者物価指数をみると主要家電は価格が1年前から15.8%も上昇

⇒ 宝石・時計も3.9%上昇するなど、家計支出は耐久財や高級品の価格を押し上げ始めている

⇒ サマーズ氏らの「財政出動は過大(Too Big)」との批判に対し、バイデン氏やイエレン財務長官は「経済対策は大胆に(Go Big)」と反論する

⇒ バイデン政権が雇用回復へ巨額対策を急ぐ背景には、ここで経済支援の手を緩めれば米政治の分断を再加速し、禍根を残しかねないとの焦りがある

⇒ 米国債の金利が急上昇する警戒が強いほど数値が高まる指標(VIXの債券版であるMOVE)は、2020年終盤から今月上旬までは40台と過去最低に近い水準にあった

⇒ 超低金利が続くとの安心感がそれだけ強かったことを意味するが、今月半ばからMOVEは急上昇し、2月25日に74と前の日から2割近く上げ、2月26日も75.66と小幅に上昇した

⇒ 米債券市場が見込む今後5年の物価上昇率は年率で2.34%に達した

⇒ 2カ月前と比べ、0.67ポイントも上昇している

⇒ 物価上昇と雇用回復が進み、22年終盤～23年半ばに利上げに乗り出すのではとの予想が台頭して金利上昇につながっている

⇒ 米国で人気となっている上場投資信託(ETF)の「ARKイノベーションETF」は2月16日に付けた史上最高値から18%下落した

⇒ 過去最大となる4億6500万ドルの資金が流出した日もあった

⇒ テスラ株を約10%組み入れるなど、成長株の集中投資で注目を集め、この半年で100億ドル以上もの資金が流入していたが、「期待だけでPER(株価収益率)が上がる局面は終わった」(岡三証券の松本史雄氏)

⇒ FRB高官から金利上昇をけん制する発言は聞こえてこない

⇒ アトランタ地区連銀のボスティック総裁は2月25日、金利はなお低水準として「政策対応が必要だとは考えていない」と話した

⇒ セントルイス地区連銀のブラード総裁も「(景気回復を映す)10年債利回りの上昇は適切」と述べた

⇒ 投資家はFRBが後手に回り、实体经济に悪影響が及ぶリスクを意識する

⇒ 一時1.6%台に上昇した米10年債の利回りは、米主要500社の配当利回り(1.5%)を上回った⇒ 株式の投資妙味は薄まり、マネーはリスク資産への投資に向かいづらくなっている

② 日経平均

⇒ 4～6月に24000円前後の窓埋めに向かうと思います

【日経平均:3年】



③ 為替

⇒ 1ドル=106.58 円

⇒ 1ユーロ=128.68 円

⇒ 1ポンド=148.49 円

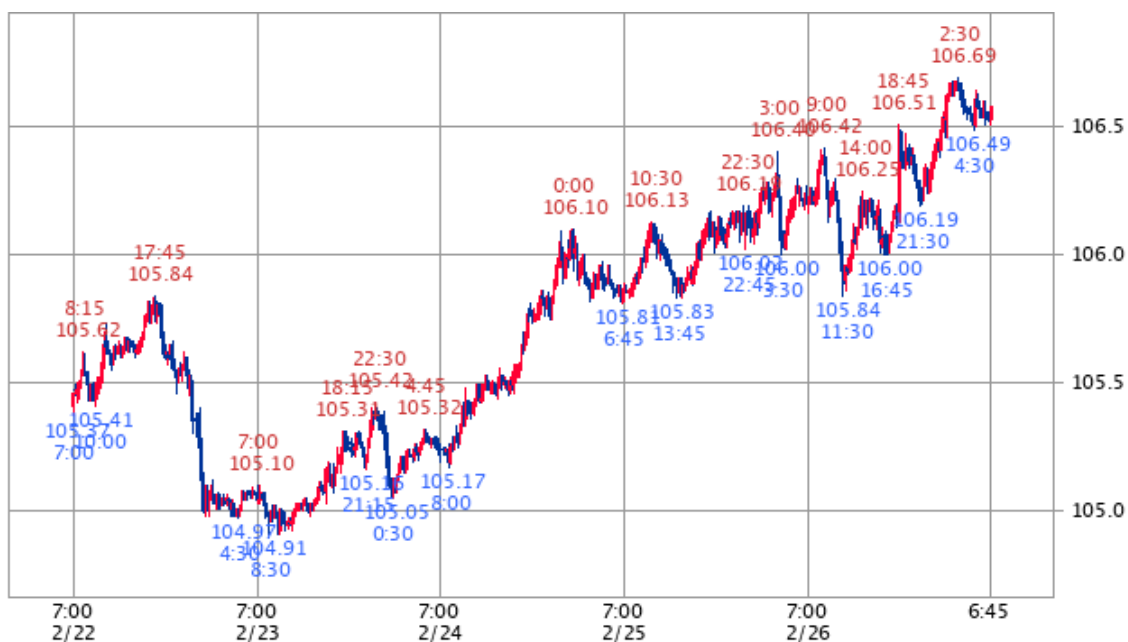
⇒ 1豪ドル=82.12 円

⇒ リスク回避の円高&ドル高となりました

⇒ 先週お伝えしましたように、ユーロ・ポンド・豪ドルは短期的には利益確定&撤退です

⇒ 中長期的には継続保有

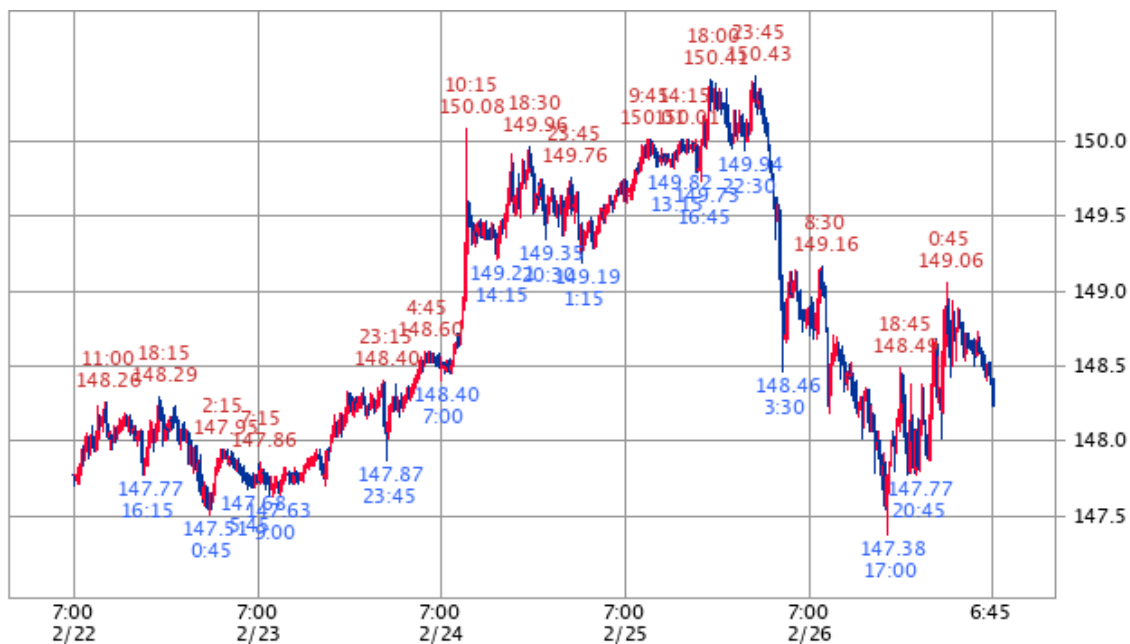
【米ドル:5日間】



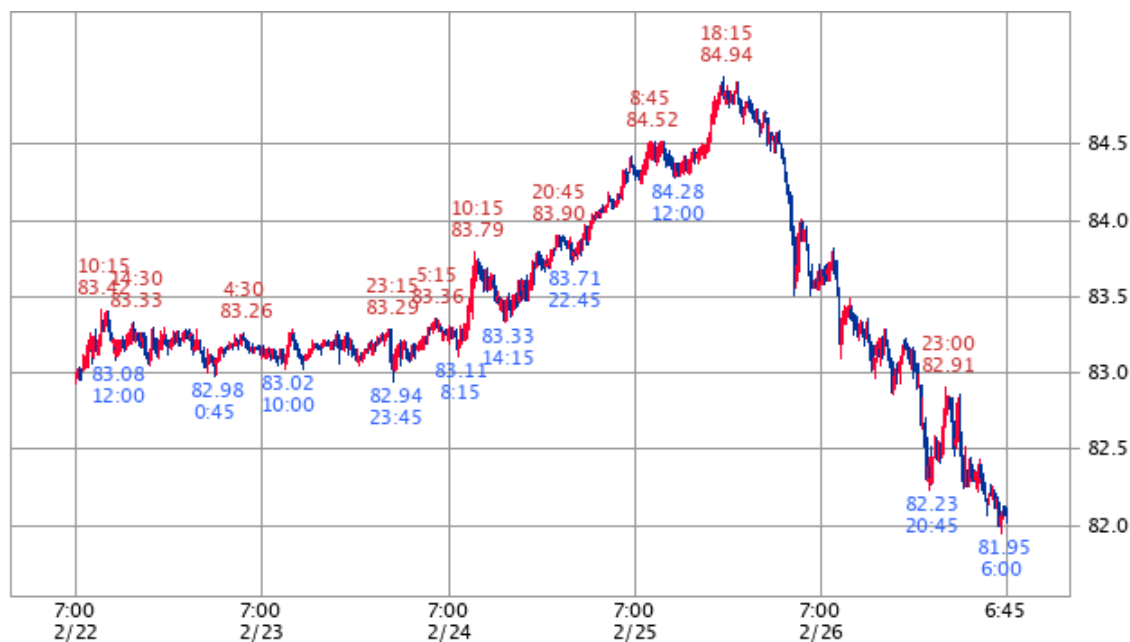
【ユーロ:5日間】



【ポンド:3日間】



【豪ドル:5日間】



④ ドル建て金 & 円建て金

⇒ ドル建て金価格は 1733ドル▲42ドルと大幅反落

⇒ 高値から▲17%

⇒ 一方で円建て金(1540)は円安ドル高もあり高値から▲14.5%

⇒ 昨年3月は 5900円→4900円と▲17%。もう少しで下げ止まりか

【ドル建て金:2年】



【円建て金(1540):2年】



⑤ ビットコイン

⇒ 完全に下落トレンドとなったようです

【ビットコイン:8時間足】

